

2004年3月19日

10～30代男女の携帯電話利用状況調査

機能を使いこなす「ケータイ達人」は、中・高・大学生。

中学生～大学生は「通話よりもメール」、コンテンツサービス利用にも積極的。

「着メロ」、「画像ダウンロード」を最も活用しているのは中学生。

「ケータイないと不安」な高校生が70.7%。保有率、通信費とも最高は大学生。

博報堂は、常時さまざまな生活者調査を実施しておりますが、このたび、昨年11月に調査した生活者調査のなかから「若者の携帯電話・PHSの保有状況と意識」についてのデータがまとまりましたので、ご報告申し上げます。

このデータは、首都圏および関西の12～39才の男女に対して実施した調査の結果を「中学生」、「高校生（浪人生含む）」、「大学生（院生・専門学校生含む）」および比較対象として「20代社会人（23～29歳）」、「30代社会人（30～39歳）」の5世代に区分して、まとめたものです。

これによると、携帯電話・PHSのいずれかを保有している人は、世代別に見ると最高は大学生の96.3%、最低は中学生の42.6%でした。また、保有者の平均通信費/月は、最高が大学生7,704円で、高校生7,398円、20代社会人6,756円、30代社会人5,715円、中学生5,359円の順でした。携帯電話・PHSの利用者が低年齢化していると言われますが、中学生では、まだまだ保護者の制限が強い家庭も多いようです。

実際の保有者のメールと通話の利用頻度を比較したところ、20代社会人、30代社会人はメールと通話の利用頻度はほぼ同程度ですが、中学生、高校生、大学生ではメールの利用頻度が圧倒的に高く、学生層と社会人で、利用され方に大きな違いのあることが浮き彫りとなりました。

携帯電話・PHSに対する具体的な意識を質問したところ、「携帯電話等は日常生活に不可欠で持っていないと不安」は高校生が最も高く70.7%もいました。「携帯電話/PHSの新機能サービスの進化に期待している」は大学生の46.7%が最も高く、今後導入される新世代携帯サービスになう中心層になりそうです。

通信機能以外のコンテンツサービスの利用状況については、「着信メロディの登録/ダウンロード」、「キャラクター画像のダウンロードなど」、「ゲームや占い/心理テストなど」のエンタテインメント関連の項目で中学生が最も高くなりました。また、その他のほぼ全項目で学生層が社会人を上回る結果となりました。学生層は、メールやコンテンツ等、本来の「通話機能」以外のあらゆる機能を使いこなす「ケータイ達人」と言えそうです。

詳細の調査結果は次ページ以降でご説明いたします。

調査概要

調査時期：2003年11月

調査地域：東京40Km圏および大阪/京都/神戸

調査方法：郵送調査（HABITパネル対象）

調査対象：中学生162名、高校生187名、大学生266名、20代社会人（23～29才）679名、30代社会人（30～39才）1,059名 合計2,353名

本件に関するお問い合わせ

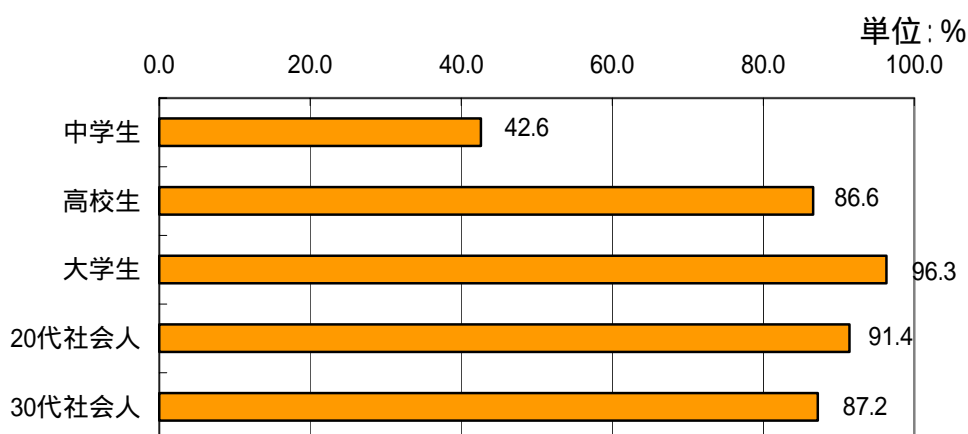
博報堂 広報室 宮川 泉谷 Tel：03-5446-6161

調査データ

大学生の保有率は96.3%。ほぼ全員が携帯電話・PHSのいずれかを保有。

世代別に見ると、最高は大学生の96.3%でほぼ全員が保有していました。次いで20代社会人91.4%、30代社会人87.2%、高校生86.6%、中学生42.6%の順でした。中学生ぐらいの世代では、まだまだ保護者に携帯電話・PHSを持たせてもらえない場合も多いようです。

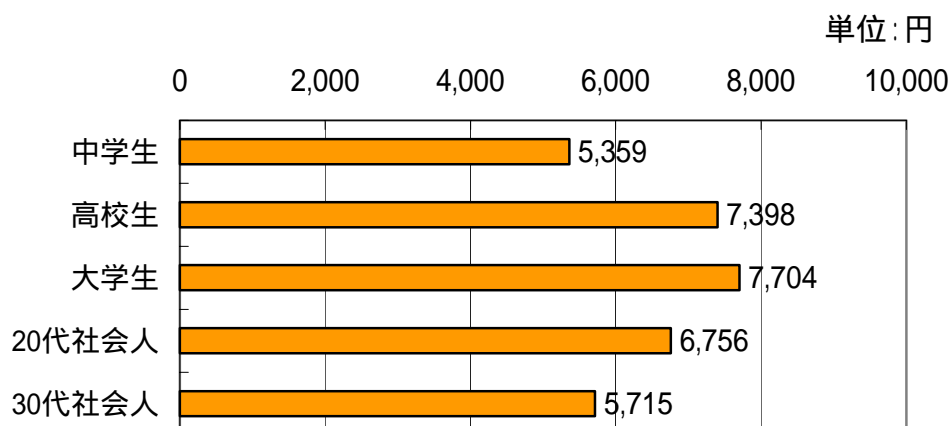
携帯電話・PHSいずれかの保有率



一ヶ月当たりの通信費の最高は大学生の7,704円。

「携帯電話・PHSいずれかを保有している人の平均通信費/月はいくらか」という質問に対して、一ヶ月当たりの平均通信費が最も高かったのは大学生の7,704円、次いで高校生7,398円、20代社会人6,756円、30代社会人5,715円、中学生5,359円の順でした。中学生は、自分で料金を払っていない場合が多いためか、通信費の面でも制約を受けているようです。

一ヶ月当たりの通信費

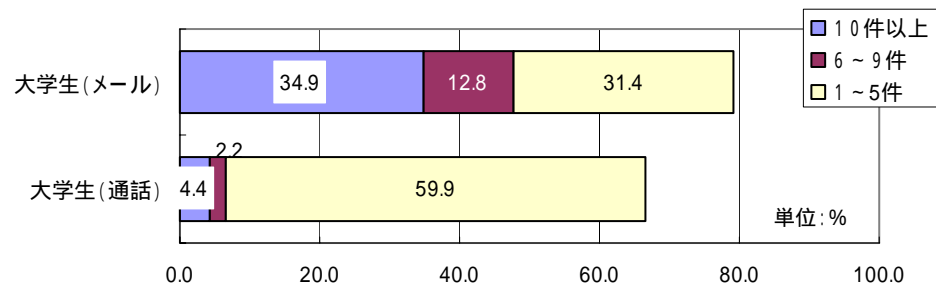
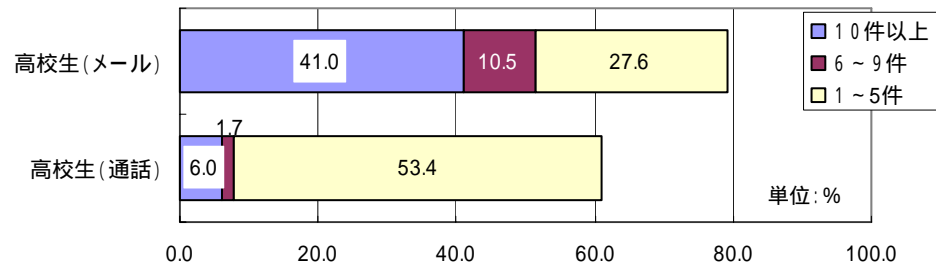
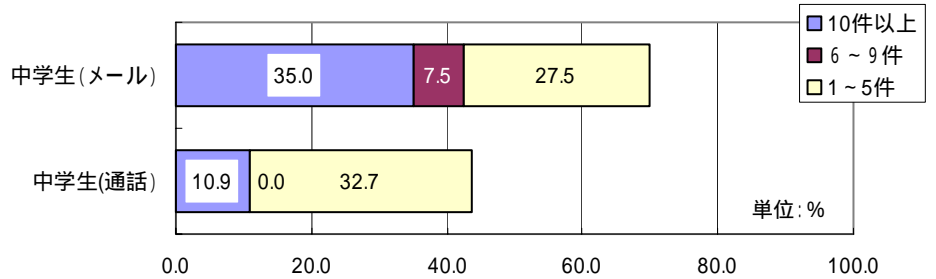


中学生～大学生は「通話よりもメール」。20～30代は通話もメールも同程度の利用。

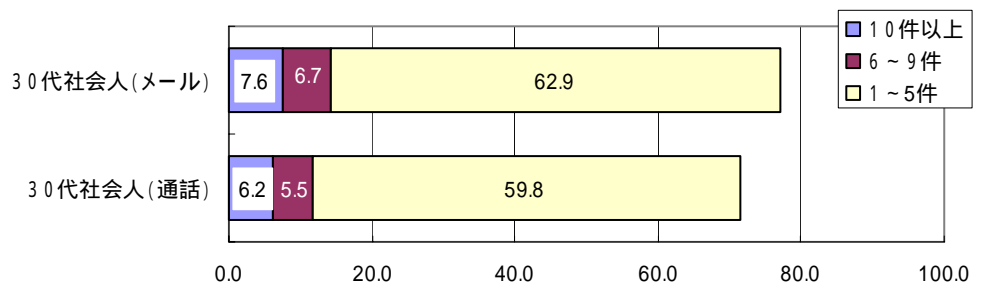
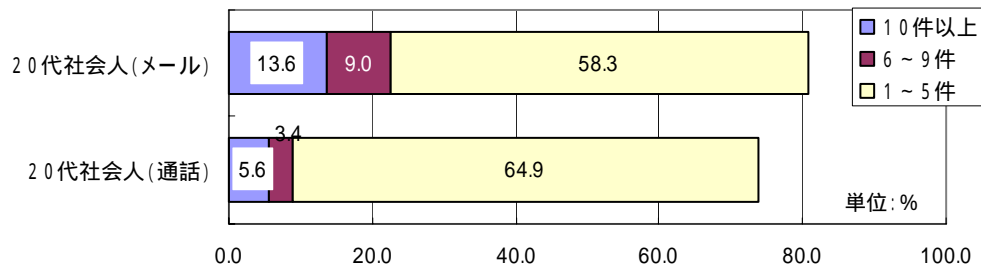
実際の保有者に対して、メール機能と通話機能の1日の利用頻度について質問したところ、学生と社会人で顕著な差が見られました。中学生・高校生・大学生ではメールの利用頻度が通話に比べて圧倒的に高い一方、20代社会人・30代社会人はメールと通話の利用頻度はほぼ同程度でした。

メールと通話の利用件数・発信/日

「通話」より「メール」派



「通話もメールもそこそこ」派



注):「分からない」、「無回答」、「0人」については、グラフに表示していないため、全体の合計が100%になっておりません。

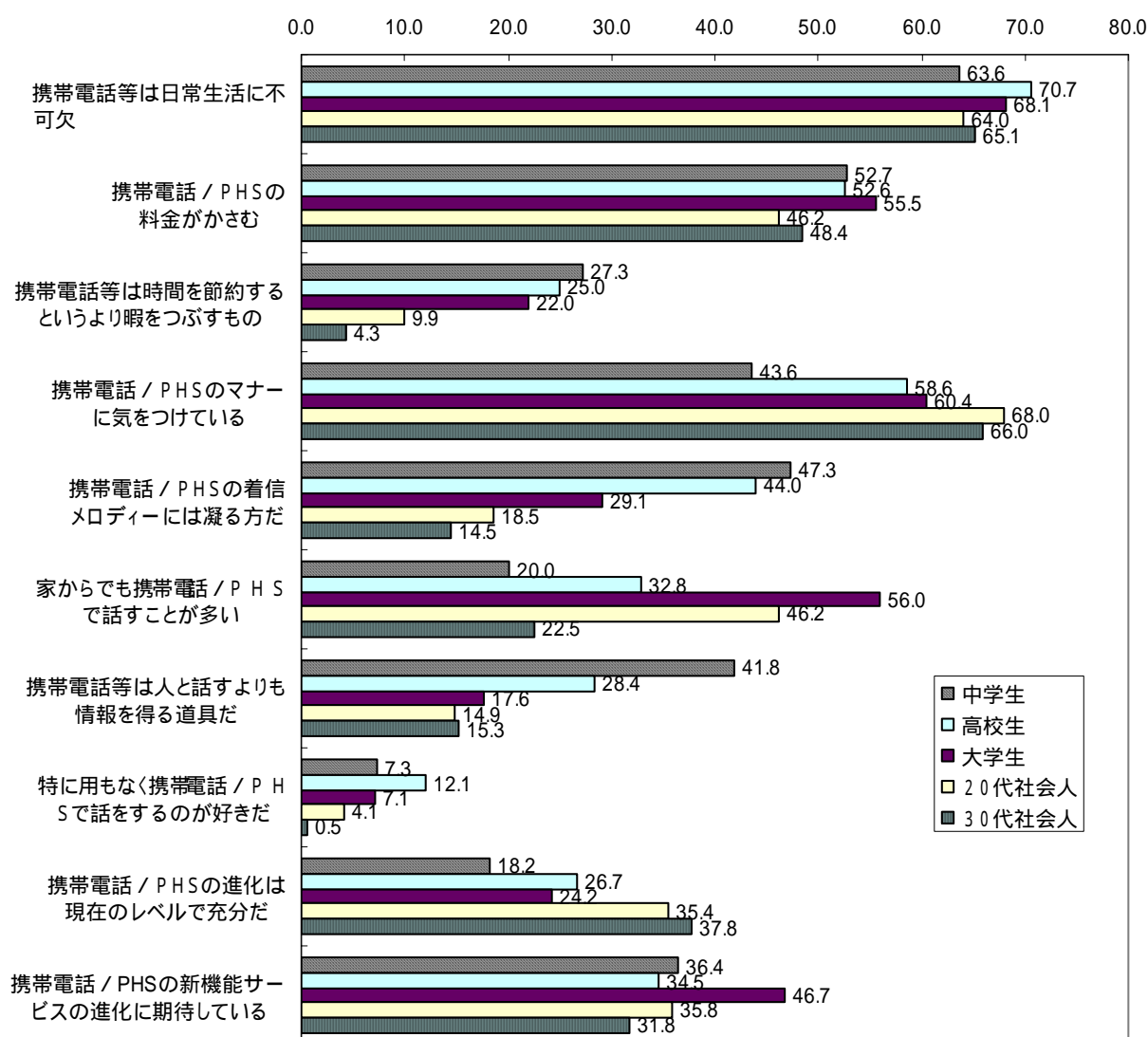
高校生の 70.7%が「ケータイないと不安」。大学生の 46.7%が「新機能サービスの進化に期待」。 「マナーに対する意識」が高まるのは高校生から。

携帯電話・PHSに対する具体的な意識について質問したところ、「携帯電話等は日常生活に不可欠で、持っていないと不安」は高校生が最高で70.8%、「家からでも携帯電話/PHSで話すことが多い」は大学生が最高で56.0%でした。また、「携帯電話等は時間を節約するというより暇をつぶすもの」、「携帯電話/PHSの着信メロディーには凝る方だ」「携帯電話等は人と話すよりも情報を得る道具だ」では中学生が最も高くなり（各々27.3%、47.3%、41.8%）所有率は低いものの、中学生は「通話」の道具としてよりも「遊び」の道具としての位置付けが高いようです。

「携帯電話/PHSの進化は現在のレベルで十分だ」では30代社会人36.1%が最も高く、一方で「携帯電話/PHSの新機能サービスの進化に期待している」では、大学生が高くなるなど、携帯電話の機能への期待感に違いが見られます。今後、登場する新世代携帯をになうのは、大学生を中心とした年齢層といえそうです。

また、「携帯電話/PHSのマナーに気をつけている」では20代社会人68.0%をはじめ、30代社会人・大学生・高校生とも5割を越えているのに対して、中学生は43.6%と半数に至りませんでした。マナーに対する意識が高まるのは高校生から、と言えそうです。

携帯電話/PHSに関する意識(所有者ベース)



学生層は、メールやコンテンツ等、あらゆる機能を使いこなす「ケータイ達人」。

通信機能以外のコンテンツサービスの利用状況については、「着信メロディの登録/ダウンロード」、「キャラクター画像のダウンロードなど」、「ゲームや占い/心理テストなど」のエンタテインメント関連コンテンツで、中学生が最も高くなり（各々90.9%、68.2%、36.4%）、世代が下がるほど利用率が高まる結果となりました。

その他のコンテンツサービスの利用についても、ほぼ全項目で学生層が社会人を上回る結果となり、学生層のコンテンツサービス利用率の高さが浮き彫りとなりました。

学生層は、メールやコンテンツ等、本来の「通話機能」以外のあらゆる機能を使いこなす「ケータイ達人」と言えそうです。

通信機能以外のコンテンツサービス利用状況

